

津久井やまゆり園における事件について（声明文）

私たちは、発達障害関係の全国および地方の障害者団体や親の会、学会・研究会、職能団体などを含めた幅広いネットワークとして、発達障害のある人およびそのご家族の権利の擁護者として活動を行っています。このたびの神奈川県相模原市の津久井やまゆり園で起きた事件について、亡くなられた方々に、心よりご冥福をお祈りするとともに、ご家族の皆様にお悔やみを申し上げます。また、被害にあわれた方々の一日も早い回復を願っています。

この事件で逮捕された男について、意思の疎通ができない人たちをナイフで刺したと供述していると報道されており、抵抗できない重度の障害者を狙った計画的かつ残忍な犯行であり、断じて容認することはできません。事件は、多くの障害のある人自身やそのご家族、福祉関係者に不安を与え、大きな傷を負わせました。津久井やまゆり園に入所している方々への心のケアに努めるとともに、全国の支援者につきましては、障害のある方々や家族へのいっそうの配慮をお願いします。男はこの施設で働いていた職員であるという報道もあり、障害のある方々の人権を守る立場にありながら凶行に及んだ経緯を含め、今後、このような事件が二度と起こらないよう、事件の背景等の究明が必要であると考えています。

逮捕された男は、「意思疎通ができない重度の障害者の人は生きていてもしょうがない、障害者なんていなくなればいい」とも話していると伝えられています。私たちは、『どんな重度の障害があるとしても、個人としてその尊厳が重んぜられ、その尊厳にふさわしい生活を保障される権利を有することは明らかである』、という基本的な考え方に基づいています。障害のある人も障害の無い人も、相互に人格と個性を尊重し安心して暮らすことのできる地域社会の実現に向けて協力し合ってきたと考えています。今回の事件は、一人の特異なケースであるかもしれませんが、障害のある方々の尊厳や存在価値そのものを抹殺しようとする大きな挑戦であると考えます。障害のある方々の価値や存在が軽視・否定される社会ではなく、お互いに尊重しあえる社会を構築するものとしなければ、亡くなった人の無念に報いられないと思っています。

もう一度、障害のある人も障害の無い人も相互に理解し合える社会の実現に向けて、これまで以上に努めていきたいと考えます。

平成28年7月28日

一般社団法人 日本発達障害ネットワーク
理事長 市川 宏伸